

卓 話



第2分区分-A
ポリオ・プラス専任講師

町田 裕一 君
(桐生赤城RC)

ロータリー財団月間に因んで
「ポリオ・プラスについて」

ポリオ撲滅に大変難渋しているのが実体です。ビル・ゲイツに誘われて国際ロータリーも2億ドルを目標に寄付する事になっておりますが、格式の高い英国の医学雑誌『ランセット』にも、ポリオ撲滅資金提供者にWHOやユニセフと同様に国際ロータリーの名前も入っております。

ポリオの中にはI型、II型、III型がありますが、II型は一応撲滅され、依然としてI型、III型は出ております。途上国におけるポリオ根絶の基本戦略は、安価で接種が容易な経口生ポリオワクチンの集団接種です。

生ワクチンのマイナスの点は、低温保存しないと率が落ちてしまうので、山間僻地で実施する場合、アイスボックスに入れて運搬しなければならない事。また生ワクチンを接種すると、腸の中で、稀に突然元の毒性を回復する場合があります、その為にポリオが起こる(400万回の接種で1回の確率、年間約2人)という危険もあります。

WHOはポリオ撲滅を当初2000年を目標としておりましたが、症例数からみますと一進一退と云わざるを得ない状況です。野生株ポリオ常在国はインド、パキスタン、アフガニスタン、ナイジェリア等で、解決困難な地域、問題を有しており、インド北部では2008～09年にかけてIII型の野生株ポリオ症例が大幅に増加しました。その他、中央アフリカの国々やネパール等でも発症しており、撲滅は難しい状況です。



生ワクチンの接種は、戦乱の最中や、ゲリラが潜んでいる場所でも行う為、命懸けで行わなくてはなりません。また、避難民や住民票の無い人にも接種する為、した人としていない人が判るよう、小指にマークを付ける等、色々な工夫も施されています。

ポリオが感染症撲滅の対象になっているのは、重い後遺症を残し重篤である事、人にしか感染しない事、安全で有効なワクチンがある事、この3つが揃っている事です。

それでは、時間がありますので、先般開催されましたバーミンガム国際大会のDVDをご覧いただきたいと思っております。2840地区では私を含めて17名が参加しました。

《次例会予告》

12月4日(金) 年次総会

姉妹クラブ フィリピン・マンダロンRC 公式訪問

11月19日(木)～22日(日)の日程で、下井田会長、中野理事、石川ニコニコBOX委員長、江原国際奉仕委員長、家住・天沼同委員の6名で、フィリピン・マンダロンRCを公式訪問致しました。



の両クラブ合同例会を開催して下さいました。例会セレモニーとして、中野バスター会長が君が代の国歌斉唱を、下井田会長が代表してスピーチを行い、大変和やかな雰囲気での両クラブの親睦を深めました。



20日(金)朝、宿泊先のホテルに迎えに来て頂いて、アンチ・ドラッグ・セミナーの支援を行っているマンダロン高校を訪問しました。



そして、翌21日(土)はノーベル・ルナ会員のお世話で、イーグル・リッジゴルフ場でゴルフを楽しんで参りました。

それから、CLE言語教育プロジェクトと給食プログラムの支援を行っているイサアック・ロベス・インターグレイテッド学校を訪問しました。

更に、4日前に70世帯が焼け出されるという大火災がマンダロン地区で発生し、



ロータリークラブと市が共同で緊急支援を行っている現場の視察を行いました。

夜は、ルイス・ディ会員の大邸宅でご夫人も参加し

観光にまわられた石川・家住両会員は、お豆腐に食あたりをして散々な思いをされた様ですが、無事22日(日)、全員帰国致しました。

